

かながわの 民俗芸能

第 55 号



大磯町の左義長

神奈川県立

45.-1

文化資料館

神奈川県民俗芸能保存協会

目次

後継者育成についてのアンケート結果概要 3

民俗芸能アンケート調査雑感 6

昭和女子大学教授 後藤 淑 6

座談会 民俗芸能の保存と活用 8

―後継者育成を中心として― 8

会員活動状況レポート 12月の活動から― 13

その1 厚木大神楽 13

その2 世附の百万遍念仏 14

その3 寿獅子舞 15

ニュース・伝言 16

後継者育成についてのアンケート結果概要(団体)

平成3年9月実施

団体65件中36件回収
(回収率55・38%)

1 現状について
貴団体の構成について書いてください
①年齢構成

(36団体合計)

年齢区分	人数
0～10歳	138人
11～20	184人
21～30	94人
31～40	113人
41～50	276人
51～60	361人
61～70	300人
71歳以上	208人

回答のあった団体の総合計からは、五十歳代の年齢構成が最も多く、次いで六十歳代となっており、逆に少ないのは二十歳代である。

②5年間の構成員の推移について

(36団体合計)

年度	人数
昭和62年度	1,503人
昭和63年度	1,544人
平成元年度	1,506人
平成2年度	1,529人
平成3年度	1,618人

全体的には、特別な増加はないものの、構成員の減少傾向はでていない。
ただし、個別の回収結果の中には減少している団体もあった。

2 後継者育成について
①貴団体では、後継者の育成について、どのように取り組んできましたか。
(具体的に書いてください。)

- 取り組み方法が多かった順は次のとおり。
- (1) 役員、会員が縁故勧誘する
 - (2) 学校(小・中)の協力により校内にクラブを結成し、指導している
 - (3) 市教育委員会の後援を得て、広く市民に呼びかけて募集し、「教室・講座」を開設した
 - (4) 一般募集

②前記の取り組みによって、どのような効果がありましたか。

- 前記の方法(1)～(4)に対応した効果は次のとおりで、団体の活動が活発化し、会員が増える等の良い効果がでている。
- 回答の傾向としては、活発に、より具体的に取り組んでいる団体の効果は良いようであり、また、地域(学校・自治会等)の協力が得られるかどうかによって効果が異なるようである。
- (1) 後継者育成会が結成された
 - ・ 宿泊研修会が実施されるようになった
 - ・ 日常の交流が深まった
 - (2) 卒業生が後輩の指導に当たっている
 - ・ 表彰されるので、励みになる
 - ・ 熱心に受講
 - (3) 参加者の紹介で新入会者があった
 - (4) 後継者が誕生している

3 「後継者がなかなか育たない」と言われていますが、その理由は
何だと思えますか。(例：●娯楽がいろいろとふえたから。)

多かった回答傾向としては以下の順で、

- (1) 現代の若者の価値観が違うため
 - (2) 中、高校生になると受験勉強があるため
 - (3) 素材で理解しにくい、人気がない
となっており、社会的変化をあげている。なお、回答数としては少ないが、団体独特の性質(神事・女人禁制・古語使用)を指摘している団体もあった。
- 前設問2の取り組みや効果についての記入に比べて、記入が少なかつた。

4 どうすれば、後継者が育ってくると思えますか。
簡単なことでも、現実に実行できると思われることを書いてくだ
さい。

多かった回答としては以下の順で、

- (1) 伝統芸能の価値、由来、伝承の大切さを広くアピールする
- (2) 文化財保護の大切さを学校教育の中に取り入れてもらう
- (3) 発表の場を増やす
となっており、その他には親の理解と協力などが出されている。
また、注目できると思われる回答には、保存会会員の各々が後継者を育成しようという意欲や価値の認識をもっと持つことが必要だという回答があった。

5 後継者育成のために、民俗芸能協会あるいは地方公共団体が支援
できるような方法には、どんなことがあると思えますか。

多かった回答順に、以下のとおり。

- (1) 経費に対する助成
- (2) 補助金の増額
- (3) 出演機会の提供
- (4) 啓発、広報活動の強化
- (5) 各団体の交流
- (6) 総合練習場所の提供
その他、表彰制度の充実、記録映画・ビデオ作成、研修会を行う等の回答があった。

6 その他意見がありましたら、自由に書いてください。

- 自由意見はあまり記入がなかったが、次のようなことが出されていた。
(前設問5の意見に重複する内容が多かった。)
- 当協会に対する県補助金増額に努めてほしい。
 - 出演の機会ができて、経費がかかり、予算的苦労が多い。
 - 道具の修理に多額の費用がかかるので補助金増額に努めてほしい。

後継者育成についての アンケート結果概要(個人)

平成3年9月実施

個人165件中41件回収

(回収率24・84%)

1 あなたは、なぜ民俗芸能に興味をもつようになりましたか。民俗
芸能の良さなどについて、具体的にお書きください。

主なものは次のとおり。

- (1) 興味をもつようになった理由
 - ① 地元で民俗芸能があったから
 - ② 郷土史を大切にし、知りたいから
 - ③ 子供の頃、地元の民俗芸能を見て育ち、その伝承に責任感を持つたから
 - (2) 民俗芸能の良さ
 - ① 土着的なものを感じる
 - ② 大いなる文化遺産である
 - ③ 歴史を知ることになる
 - ④ 社会教育になる
 - ⑤ 郷土の誇り
- (1)からは、生活の中からごく自然にもった興味であり、強制されて接した中から持った興味ではないことがわかる。

2 それでは、民俗芸能の良さを多くの人に理解してもらうためには、
どのような方法があると思えますか。

主なものは次のとおり。

- (1) 発表会を多くする

3 「後継者がなかなか育たない」と言われていますが、その理由は
何だと思えますか。
(例：……●娯楽がいろいろとふえたから。)

上位を占めた回答としては以下の順で、

- (1) 娯楽が多くあるから
- (2) 受験勉強が厳しくなったから
- (3) 価値観の変化
- (4) 伝承意識の不足
その他、注目できると思われる回答の中には、口伝えが多く、文章・
図面等になっていないから、という伝承形態について指摘しているもの
や、指導者が不足しているから、という回答があった。

4 どうすれば、後継者が育ってくると思えますか。
簡単なことでも、現実に実行できると思われることを書いてくだ
さい。

多かった回答としては以下の順。

- (1) 学校教育の中に取り込む
- (2) 地域に対するPR
- (3) 指導者の育成
- (4) 教員に地元芸能を認識してもらう
- (5) 教室を開いて、幅広く同好者を募る

(6) 伝承者の資格、制限を緩和する
以上のように、対外的な取り組みについての意見、あるいは団体自身の体制改善についての意見が出されていた。

5 後継者育成のために、民俗芸能協会あるいは地方公共団体が支援できるような方法には、どんなことがあると思いますか。

多かった回答は団体の内容とほぼ同様で次のとおり。

- (1) 財政援助
- (2) 発表会の場所提供
- (3) 広報活動の強化

6 その他意見がありましたら、自由に書いてください。

○ 協会会員証の発行と名刺肩書きの利用

○ 正しい伝承者の育成

○ 芸能大会開催の周知の充実

以上については複数から回答があった。

その他には地元の民俗芸能案内板設置をすることや、宿泊見学会実施についての意見もあった。

民俗芸能アンケート調査雑感

後藤 淑

アンケートのまとめから

神奈川県民俗芸能後継者育成に
いてのアンケート回収率は団体が約

五十五パーセント、個人が約二十五

パーセントであった。回収率から考
えると、この調査から神奈川県民俗

ことは間違いなからう。

近代に入り、民俗芸能は人々の日常生活から離れ、特殊な生活へ移行しつつあるというのである。近代社会に入る以前までは、民俗芸能は祭りや行事の一部として必要な存在となっており、特に信仰生活と深く結びついていた。この日常の信仰生活から特殊な生活へという意識の变化が価値観の相違をもたらすことになった。今日では信仰生活から観光・文化財へという意識の移行がなされつつある。現代の若者の価値観が違ってきて、民俗芸能が現代の若者から遠ざかった。若者には理解しにくく、人気がなくなり、後継者がなくなつた。この現状と流れを理解する必要がありう。この流れにさからうと継承を誤るのではなからうか。

民俗芸能の価値

そこで民俗芸能の価値が改めて考えられることになる。文化の価値は新しいものの中にすべて存在するということにはならない。精神的なところが強く関係する文化は新しいから価値があるとはかぎらない。第二次世界大戦頃の文化や考え方はそれ以前の文化や考え方にすべてまさって

芸能後継者育成の現状を正確に読みとめることは難しい。解答のなかった団体と個人の数がかなり多いので、解答のなかった人々がどう考えているか、その解釈が難しいからである。

回収率は決して多くないが、その解答内容は、真剣な体験をもとにしたものが多く、信憑度が極めて高く、後継者育成について示唆を受ける点が多い。これは意味のあることである。

アンケートによると、民俗芸能を実際に行なっている年齢は五十才から七十才までの高齢者が多く、中でも六十才代が多い。これは全国的に見られる傾向であろう。民俗芸能の将来が心配される所以であり、後継者育成が問題となる理由である。一方、昭和六十二年から平成三年度までの民俗芸能に直接参加している人々の数を見ると、わずかではあるが年毎に多くなっている。これはどのように解釈したらよいであろうか。

指導者

いずれにしても、民俗芸能の将来に関して、後継者の問題が大きな課題となつていることは間違いのない。ま

たものは元に戻せばよいし、忘れられたものはない出したらよい。価値高いものには、時間、年齢、民族を超えて動かないものがある。それをよく知ることが必要となる。

ある俳優が、最近の俳優の芸は見て面白くないし美しくないとわれ。それはどこに原因があるのでか。それと老俳優に尋ねた。すると、老俳優はそれは今の俳優が芸とは何か、美とは何か、面白く見せるにはどうしたらよいか、芸能の本義をよく知らないからだと言ったという話がある。民俗芸能の本当の価値と良さを知ることが、この俳優の問答と共通したものがあるように思う。

文化は画一的であるよりも個的である方がよいという。創造力は個的なものの中に多くあるというのである。民俗芸能は郷土芸能ともいわれているように、地域社会の中で長い間育てられて来たもので、そこには地域的特色がある。個的存在といえる。観光と結びつきやすいのもそこに原因の一つであろう。そこには一時的な流行とは違った味わい深いものがある。民俗芸能は、ただ単に芸能だけが独立しているのではなく地

た、解答内容を見ると、後継者育成について、指導者の存在が大きくかわっていることが窺い知られる。この調査では指導的立場にある人々の民俗芸能継承に対する情熱のようなものの必要が何となく感じられた。

このことは逆に指導者の消滅が民俗芸能の消滅にもつながると感じたのであった。昭和六十二年から平成三年度までの民俗芸能に加わる人々がわずかではあるが多くなっているのは指導者の努力によることであつたのではなからうか。

この調査の中には、民俗芸能の価値に関する啓発のこと、学校教育との関係に関する事、カルチャー・講座に関する事などが多く、これは指導者とも関係があらう。

歴史的流れの中の民俗芸能

指導には民俗芸能の現状とその価値・良さをよく理解してかかることが必要である。民俗芸能の価値及び今後における育成と継承のことを考える場合、現在の民俗芸能がどのような歴史の流れの中で変容しつつあるかを鳥瞰しておくことは必要となる。いろいろな変容があらうが、まず、一つは次のような変容がある

域生活、先祖の生活をも取り込んでいく。懐かしさが何となくたどっているのはそのためではなからうか。

学校教育

文化財とは何か、郷土文化とは何かを知る最適の素材が民俗芸能にはある。学校教育の中にこれを取り入れ、画一的な教科書に加えて副読本として活用することは考えられないであろうか。学校であれば練習、発表の場も多くあらう。こうしたことが軌道にのれば民俗芸能を育成する底辺は広くなり、永続も可能となる。最近ではカルチャーなど地域の文化活動が盛んである。こうした文化活動は役所、生涯教育、父母、学校と結びついていよう。郷土芸能の特色を知るために日本の芸能、世界の芸能を学びたい。日本の芸能の原点の一つに郷土芸能を位置づけたい。日本芸能の特色を知るために世界の芸能を知る必要があると同じである。郷土芸能をただ文化財にとどめるのは惜しい。新しい郷土芸能、日本芸能の創造とも結びつけたい。

(昭和女子大学教授)

座談会 民俗芸能の保存と活用

— 後継者育成を中心として —



出席者 後藤 淑 (神奈川県民俗芸能保存協会会長、昭和女子大学教授)
石井 一躬 (神奈川県民俗芸能保存協会理事、県立光陵高校教諭)
平野 博 (湘南座代表)
箭子 清 (内山剣舞おどり保存会長)
(敬称略、順不同)
司会 須藤 早苗 (事務局員)

保存の現状

司会 きょうは後継者育成問題を中心として民俗芸能の保存と活用をいかにすべきかを皆様に語っていただきたいと思ひます。

まず、はじめに保存の現状が神奈川県の場合どのような状況なのか、また全国的に見るとどうなのかという点について後藤先生にお話ししていただければと思ひます。

後藤 民俗芸能の保存と後継者の育成の問題は、何も神奈川県に限ったことではなく、全国的なことです。他県ではまず、過疎化の傾向にあってそれに悩んでいます。

民俗芸能を行なう人は(内容や質にもよりますが)若い人が活躍するところが多いんですね。ところがその若い人が皆、外へ出てしまふ、それをなんとか食い止めることがまず第一なんです。

ですからいろいろな方策をとっている訳ですよ。たとえば、お祭りの日にちを変えてしまつて正月近くのものはみんなまとめてしまつたり、土、日曜日の休みに集中させたりする。

民俗芸能は本来その日にちとか時間とかに興味があつた訳ですが、でもそれを無視せざるを得ない現状で、何よりも保存でき得る限りのことをしているんです。随分無理をしてやっているというのが全国的な一つの現状です。

その点、神奈川県というところは大都市を控えていて民俗芸能を伝えている若い人が、伝承地から自分の勤務地へ通うことができる。これは他県から比べたら、割合に保存しやすい状況にあり、かなりいいのではないのでしょうか。成果も上がっているように思えます。

先日実施した協会のアンケートの団体の回収率も他県と比べると比較的良好なことから神奈川県は各団体の方々が後継者育成の問題に関心があるし、熱心だと言えらるのではないのでしょうか。

司会 ありがとうございます。同じ話題で、全国の祭礼なども研究されている石井先生はいかがお考えになつていらつしゃいますか。

石井 神奈川の民俗芸能は特に祭礼との係わりが深いと思ひますが、神社など氏子の方々が非常に熱心に活

動していますし、先ほどの後藤先生のお話のようにまだまだそう悲観的な状況ではないのではないのでしょうか。もちろんこの場では民俗芸能の部分で論じなければならぬですが、保存や育成を考へるときに祭事の内容とか村落の構成のことを抜きにして考へることはできない問題だと思ひますね。

司会 それでは、実際に民俗芸能の保存に努める一人として、内山剣舞おどり保存会長の箭子さんに現状を伺ひたいのですが。

箭子 内山剣舞おどり保存会の会員は年配の女性が多いんです。日常は孫の子守などに追われて、練習の機会に人が揃わず困つた状態になつてきた時がありました。その他、この芸能そのものが現代的でないで、あまり受けられない感で、新たにやろうという人がなかなか現われなかつたのです。

そこで、この事態をなんとかしなければということで、地域の方々に直接訴えかける方法として、会員が手分けして家庭訪問をすることにしました。

結果としては、地域の方の理解が

ありまして、十六名もの人が加入してくれました。

うれしいことは、練習にはお祖母さんがお嫁さんに手をとつて指導していたり、練習の後のお茶を飲みながらの世間話に花が咲いたり、和やかな光景が見られるんです。

会員は郷土の芸能の保存の目的だけでなく、この踊りを通して地域の婦人の心のふれあひの場の役割を果たすことも必要だと思ひます。

司会 ありがとうございます。続いて湘南座代表の平野さん、きょうはこのテーマにあつては新しい風が存在しても申しましようか、後継者不足の今日に、若い人たちが集まつて新たに座を旗揚げしたという明るい話題を新聞紙上に載せたのは、確か約二年前でしたね。座の発足のいきさつですとか、現状をお聞かせください。

平野 平塚市内にある県立高浜高校と茅ヶ崎市にある県立茅ヶ崎高校の生徒がクラブ活動として乙女文楽に取り組んでいるんですが、高校生活三年間で終わつてしまつてはもつたない。これをなんとかして続けていく方法はないかと言う声

が上がつて、両校の卒業生が座員となつて座を結成し、継承していくことになりました。

師匠には桐竹智恵子さんを迎え、平成二年四月八日に平塚八幡宮神楽殿で旗揚げということになつたんです。きょうも夜、鎌倉で公演を依頼されています。活動は活発に行なつております。

しかし、すべて順調という訳でもありません。人形の遣い手は確保されましたが、義太夫節の語りや三味線の奏者不足という現実がありますからその点で悩んでいます。

現代感覚との違い

司会 今の平野さんのお話ではすべてがうまく進んでいる訳ではないところですが、とにかく若い遣い手が育つていくことは注目すべきことではないでしょうか。

後継者不足の原因の一つには現代の生活様式の違いなどから民俗芸能が若者の感覚に合わないからだとも言われていますね。

石井 そうですね。わたしが生徒と国語の授業で接しているなかで気づ

いたことと言うと、たとえば「こより」ということばが出てきた時に三分の二ぐらいの生徒は知らないですね。見たこともないそうです。それから下駄の「鼻緒」も何と言うかという、下駄の「ひも」になつてしまふ。つまり、芸能だけでなくつい最近まで我々の生活に身近かであつたものが彼らの生活の中には既にならなくなつていっているんですね。

従つて、それぞれの民俗芸能の行われてきた生活とか離れた現状から、若者たちにどうやたららその継承者になるまで向けられるのか、むずかしい問題なのではないでしょうか。

後藤 民俗芸能のあり方が、昔は生活の一部であつたのでそれがなくなつたら生活が成り立たなかつた。だから何も保存しようと思わなくても自



▲後藤 淑氏



▲箭子 清氏

然に保存できた。つまり自然だったんです。ところが今はそういう状況ではなくて生活からは何か遺物のような感じになってしまった。まさに特殊になってしまっている。だからそういう流れに移り変わっているんです。これは自然の流れであって食い止めることはできないと思います。それをどのようにしたら、最も有効に後世に伝えられるかが重要なことなのです。

学校教育への取り組み

司会 自然のままにしていたら民俗芸能は消えてなくなってしまう流れの中に私たちは今、生きています。ということですね。

後藤 そうです。ですからこれは私の全くの個人的な考えですが、最も

有効に後世に伝えるためには学校教育にその多くを背負ってもらわないといけない。そうやって普及していかなければならぬと思います。つまり、学校教育は私たちが生活し、文化とはこういうものであるという文化を教えるところではないか、文化とは何ぞやということを経験を通して教えて欲しいですね。

民俗芸能というのはその土地に根づいた郷土色豊かなものだから、自分たちの生まれたところにこんな特色あるものが先祖代々ずっと伝えられていることを学習することは、その土地に生まれ育った若い人たちにとって将来何らかの形で生かされてくるのではないのでしょうか。たとえば外国へ行ったとしても故郷はこんなだったという意識がでる、これは大事なことでないかと思うんです。

ですから、ある県では教材に民俗芸能を取り入れているところもあります。たとえば運動会の際に風流踊りをやるなどしている。すると小学校六年間なり、中学校三年間なり続けることになるので印象深いものになるだろうし、また自分の土地のこ

とを学習する訳ですから意味があると思います。

箭子 今、学校教育の中へ取り入れるという話ができましたが、私どもの内山剣舞おどりは地元の北足柄小学校に会員の中から指導者を派遣して毎年、六年生が踊ってくれています。これはもうかれこれ十年間ぐらいは続いています。

これから学校五日制が実施されていくときに、ますます郷土の芸能を学ぶ機会を残していって欲しいと思っています。

広域的な支援を

平野 学校教育に取り入れることで効果は先ほどの後藤先生の話が湘南座の座員のひとりに当てはまります。その座員は学校を卒業してニューヨークに行ったけれども帰ってきてからはますます乙女文楽を続ける気持ちが強くなったんだそうです。

わたしは学校教育のほか、県などの行政側で広域的に義太夫や三味線の奏者の養成を行っていただきたい気がします。前に述べましたとおり湘南座のような場合、人形の遣い手



▲石井一躬氏

よりそちらの方が心配です。この話題をすると、なかには安易に録音テープで演じればいいじゃないかと言う人がいる。とんでもないことです。後藤 義太夫や三味線の奏者不足はこれも全国的に言われています。私などは幼い頃から浄瑠璃とかそういうのを聴いていますから良いものだと思っていますがね。

触れる機会を増やす

石井 学校行事で国立劇場で行う歌舞伎教室に行くんですが、そういう機会に芸能というものに興味を持つ生徒もできます。だから、県単位ぐらいでそういう公演を定期的に鑑賞する場や、出会いの機会を増やすことも大事でしょう。

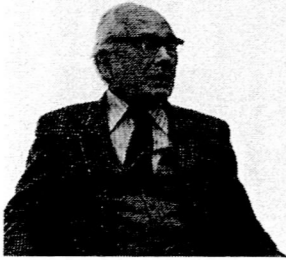
司会 今の若い人たちはおそらく義

太夫などの話りの意味がわからないでしょうね。たとえば歌舞伎を観る時、解説本を見ながらや解説イヤホンを付けるとかしながらでないといと演じているのかさっぱりわからな

いと思います。後藤先生は幼い頃から馴れ親しんでいたことですが、後藤 若い時から親しむと自然に雰囲気の中に入ってくるんですよ。すぐ意味がわかる。私の祖父が喜多流の能を習っていましたからいつも話っていたのを聞いて育ったんです。

ですから歳をとってからではなかなかそのおもしろさとかを理解しにくくなるので、若いうちの出会いが大切だと思えますね。

平野 機会を増やすということでは地域とのつながりを多くすることも保存していくうえで必要でしょう。県立高浜高校の乙女文楽クラブは地



▲平野 博氏

域の文化祭に出演して普及に努めています。そうすると、この地域にこんな芸能が残っていることを初めて知ったと感激する人もでてきます。ただ、こうして機会を増やしていきたい気持ちの反面、経費が掛かる点が悩みとなるんですが。

企業の財政支援

司会 経費の話が出されましたが、湘南座は二年前の発足の年には東洋信託文化財団の助成を受けられたとのことですね。

平野 そうです。ちょうど東洋信託銀行の文化財団を設立した年に助成していただきました。中央の華々しいものに対してだけでなく、地方の文化にも眼を向けていただいたこと

はありがたいですね。そのほか地域の企業のご理解で寄付をいただき、励みになっていきます。後藤 日本全体としても政府の出資金やたくさんの企業の出資金から成る芸術文化振興基金ができて、民俗芸能だけに對してはありませんが文化全般に關する中から毎年いくつかの団体に助成しています。まだ設

立されてから何年も経っていませんから浸透していないでしょうけれど。

指導者の育成

司会 どの保存会も財政面では多かれ少なかれ苦労していますが、今の話のように行政側だけでなく企業側からも支援されることは、民俗芸能を多くに理解していただけて、より保存発展につながるかもしれませんね。ところで先ほどの話題の中で、演

じる側は確保できても演技指導者が減ってしまうという指導者の部分の問題点がでていましたが、それにしてももう少し話を進めてみたいと思います。たとえば学校教育の中で取り入れる場合、地域の民俗芸能についての先生方の理解というのがあります。必要ですね。

石井 まず多くの教員は学校の周辺地域にどのような民俗芸能があるかを知らないと思います。また、あ

芸能を見、人を訪ねて調べていく民俗学的調査となるとやりにくいから

です。ですから、教員対象に民俗芸能や文化財一般の講座を設けるなど研修の場が提供されれば知る機会ができて、指導者育成の点でもより広範囲に郷土の芸能を理解され、効果的な方法になると思うんです。

司会 そうすると、前に出された平野さんのお話と合わせると行政側で講座を設けるなどして指導者の方を養成することが必要ということになりますね。

教材に文化財の副読本を

後藤 学校教育に取り入れていく場合には、既にどこかで実施しているかもしれませんが、副読本を作ることも効果があると思います。一つの学校単位で作成するのはたいへんですから、まとまった単位、県レベルあたりで作成して、それを配本して授業の傍らに教えるというのもある程度効果が期待できるのではないのでしょうか。やはり、知る機会がないとどうすることもできないですか

ら一つの方法として考えてもいいのではないかと思います。それによって地域の芸能を観に行くということもあるかもしれませんから。

地域との連携

箭子 学校に焦点が絞られています。学校五日制が実施された場合には、郷土の芸能を知ることによっていい機会になると思います。

今は学校の先生と児童・生徒という関係で考えた時の話が進んでいますが、休日のことを考えると今度は親と子供の関係になる。それが民俗芸能の保存会と親、保存会と子供のように結びついていければ、うまく地域と連携していける気がします。学校五日制実施に際して何かこの機会をうまく利用できないものかと考えています。

これからの保存と活用のあり方

司会 本日は皆様から後継者育成についてさまざまなお話しをしていただきましたが、まとめとしてこれからのあり方についておひとりずつ伺いたいと思います。

箭子 今の内山剣舞おどり保存会は演技の指導をする人が会員の皆から信頼されていて、よくまとまっていますから、これからの良い指導者を絶やさないようにして保存に努めたいと思います。

平野 湘南座は現在座長がおりませんので発起人のひとりの私が代表という形でおりますが、学校のクラブ活動のように先生と生徒の親密さ、師匠と生徒の親密さのように座の活動にもそういう雰囲気づくりを心掛けて細々とした活動でもいいから続けていきたいと思っています。

石井 学校の教員という立場で考えても、民俗芸能の保存・育成のために、多いに学校という場や私たち教師を利用してほしいですね。そうすることで少しでも役立てるかもしれないですから。

現在の後継者不足をいかにして解決していくかという点にあったと思いますが、文化財を保存していく立場でもう少し広く考えますと、伝えていくことも大事ですが、現在の状況はこうだったということ記録保存することも大事だと思います。

民俗芸能というのは厄介なところがありまして、たとえば五線譜にその音を残そうとしても聞き手によって違ってきてしまうんです。また、演じる人が変わっても違ってしまいます。つまり、伝承すること自体がもともとむずかしいものなのです。

でも、最近はビデオ録画が容易にできるようになってきましたから、そのビデオで現状をすべて完全に映像化しておくことが可能となりましたのでそうすることの必要性を強く感じます。

郷土の文化とか民俗文化は歴史が作っていくもので、その歴史が一つの堆積として今日に残っていくものであってこれを正しく伝えていくことが重要なことだと思います。それから、皆さんの話から指導者の重要性も出されましたが、そのとおりでも民俗芸能に限ったことではなく、すべてのことに共通することだと言えます。「文化は人なり」と言った人がいますけれど、まさにその通りではないでしょうか。

また、日本の社会では価値観を考えるとき国際的に見るのが非常に重要と言われていますね。文化国家日本と言うにふさわしいように一部の人のだけのものではなく、皆が国際的な目で価値観を見い出せるように民俗芸能を高めていってほしいものです。

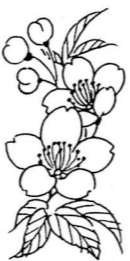
司会 皆さま、長時間に亘り貴重なお話をいただき大変ありがとうございます。



会員活動状況レポート

2月の活動から

その1 厚木大神楽



厚木市在住の島本清友さんは、厚木大神楽の技芸者で昭和六十三年には地域文化功労者として文部大臣表彰をされています。

二月三日(月)、編集部では会員の島本さんの活動取材するために公演会場の厚木市立第二小学校を訪ねました。

この日、同小学校では厚木市教育委員会主催の郷土芸能保存公演事業として、厚木大神楽の公演を児童に見せることになり、体育館には第三学年百六十名が集まっていました。

午前十時五十分、ステージ上ではお囃子と共に島本さん演じる獅子舞の始まりです。児童の視線は一斉に御幣や鈴などの採物を持って次々と舞う獅子舞に注がれ、真剣そのものです。

厚木大神楽は江戸時代から藤沢大神楽と呼ばれた伊勢大神楽十二組の

ひとつ。その家元、七世木村幸太夫が島本清友さん(八十八歳)です。毎年一月から二月にかけて厚木周辺地域を神楽長持を曳いて正月祓いを行なってきました。構成は獅子頭、笛、太鼓、鉦、三味線で総勢七〜八人。厚木大神楽は曲芸とともに巫女舞の型もよく伝えており、昭和五十五年九月十二日県選択無形民俗文化財に指定されています。

さて、この日の公演時間は約四十分間。獅子舞の遣手には島本さんのお孫さんに当たる本多あけみさん、囃子方(太鼓)には奥さんが加わり息の合った演技が繰り広げられました。

公演が終わると、児童からの質問の時間が設けられ、次々と手が上がり、小学生らしい純粋さのあらわれた質問が出されました。そのひとつに答える島本さんの顔には優

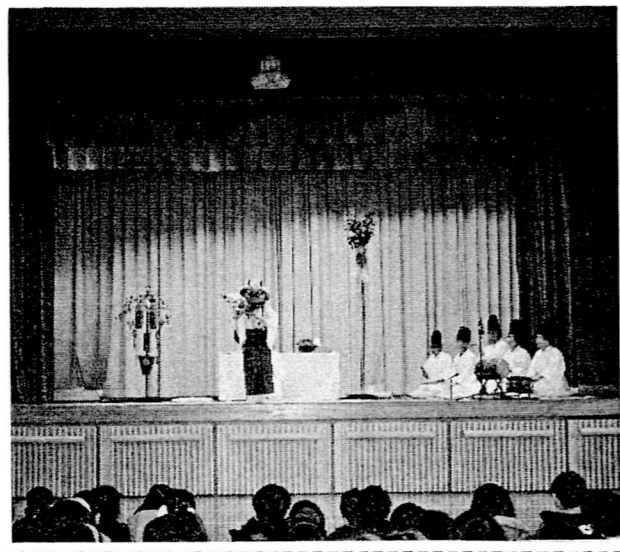
しさが溢れており、演じる側、見る側の双方にきつと印象深いものとなったことでしょう。

公演前に中村校長が話されていますが、同校の通学区域内に島本さんの住まいがあるが、なかなか児童達は厚木大神楽に接する機会もないので、地域の学習をするのに良い機会と考えたとのことです。なるほど公演終了後に編集部でも数人の児童に感想を聞いて見たところ、初めて見たという声が多く返ってきました。

島本さんの話では、近年では交通量が増えて危険、あるいは正しい理解を得られない等

の理由で、神楽長持を曳いての町廻りはしなくなったとのことで、芸能大会等の公演や結婚式での依頼を受けた時に活動するようになってしまったそうです。ですから、地元の小学校児童もこうした場で初めて接するのだそうです。これも時代の流れだからと語る島本さんの表情は、やはり少し寂しそうです。

しかし、今後の夢は大神楽の変遷を舞台で披露することだそうです。



世附の百万遍念仏

関東を境に変わった芸態や時代による違いなど、昔どおりのものを残して置きたいと考えているけれども大がかりなことなのでおっしやっています。編集部の取材に応じる島本さんの話には、その芸能を愛する心がよく伝わってくる感じがしました。

今回の取材では、編集部は凶々しくも島本さん宅にも訪問し、長時間に亘ってご長男の一郎さんを含めてお話を伺わせていただきました。これからも、ますますご活躍ください。



国道246号線沿いの山北町向原の能安寺で二月十五日(土)、十六日(日)の二日間にわたって世附の百万遍念仏獅子舞が行なわれまし。編集部では、初日の十五日(土)に、この世附の百万遍念仏保存会長であり、当協会の会員である石田守さんにお会いするため能安寺を訪れました。

この日は、二月とは思えないほど暖かな春日和でした。寺の道場を開け放して約二時間の行事となるので、寒い日でなくてよかったですという感じでした。

さて、世附の百万遍念仏は、三保ダム建設(昭和四十九年)前までは三保世附の能安寺で毎年二月十五日から十七日まで行なわれてきたものを現在の場所に移して、毎年二月十五日に近い土、日曜日の二日間になりました。その特徴は巨大な滑車に大数珠(長さ九メートル、数珠の数三百二個、丹沢の水桃木で作る)を取り付け、屈強な青年たちが回転さ

せる型式で全国的にも珍しい行法。これが終わると獅子舞、遊び神楽と続き、特に「鳥さしの付く獅子舞」として貴重視されており、昭和五十二年六月二十三日県指定無形民俗文化財に指定されています。

獅子舞などの伝承方法も基本的には同様ですが、昔と違うところは書面等に記録されている点で、覚える時間も短縮されているそうです。

現在会員は約百二十名で今年度は二十二〜三歳の若者が四〜五人加入して活性化してきましたが、もっと地元の人に馴染んでいただくことにより、後継者を育てていきたいと語ってくださいました。

午後一時、行事が始まると本堂内はカメラやビデオをもった人であふれ、大鼓と念仏の音の中で、数珠を回す人たちの姿も次第に熱気を帯びてきて、互いに速く回せとはやしたてています。今年はテレビ神奈川の取材が入っており、三月に放送もさ



れるとかで、照明の明かりが雰囲気を一層盛り上げていたようでした。休憩を挟んで獅子舞、遊び神楽になると、獅子やヒョットコが見ている子供達などの中に飛び込んでいって笑いを巻き起こしながら、午後二時三十分、本日の行事が終了となりました。

その3

寿獅子舞

神奈川県は梅干しと言えば小田原の曾我梅林の梅を連想する方も多と思います。二月には約三万本が一斉に花を咲かせ、あたり一面甘い香りにつまれます。この期間は梅祭りが行なわれ、祭りを盛り上げる役の一つを担っているのが、寿獅子舞です。期間中の休日には三ヶ所の特設会場で時間をずらして午後一時から順次演じられて、観梅客の眼を楽しませていきます。

二月の会員活動状況レポートの最後は、この寿獅子舞保存会を紹介したいと思います。

保存会長はこの梅祭りの実行委員会の委員長も兼ねる川久保和夫さん。二月二十三日(日)、今年の梅祭り

最後の休日に実行本部でお話を伺いました。

梅の咲き具合は暖冬のためか、もうそろそろ終わりの感じでしたが、観梅客は会場いっぱいになり出で宴たけなわで、雪をかぶった富士山もくっきりとその姿をのぞかせ、早春のうららかな天気でした。

川久保会長の話では、この時期は平日にバスを連ねて観梅に来て、寿獅子舞の公演も見たいという申し出もあるそうですが、休日以外はなかなか会員が揃わないのでお断りしているそうです。このように公演の要望が多いことはたいへんうれしく、今年だけでも二十二回行なったとのこと。郷土に根ざした芸能とし

て梅祭りの時には特に優先して出演しているけれども、それが一番似合う気がするのだそうです。

会員は一組から四組まで分かれており、一組は六十歳代、二組は五十歳代、三組は四十歳代、四組は二十歳代中心でこの四組が昨年誕生して全部で四十人の会員数です。ちなみに会長ご自身は一組だそうです。この四組の二十歳代の若者が加わったことは、後継者問題に悩む今日にあってたいへん良い傾向で、毎週火曜日には、熱心に練習を重ねているとのこと。

トコが踊りはじめ、たくさんのお客が舞台の周りを囲んで、盛んに拍手を送っていました。きょう踊っているのは二組で五十歳代の会員だということです。

公演の様子を拝見しながら先ほどの会長の言葉が思い出され、のどかな梅林の里に本当に合う芸能だと思いました。

二十歳代の後継者もできたこととで、ますます活気ある活動を行なう保存会として今回の紹介を終えます。

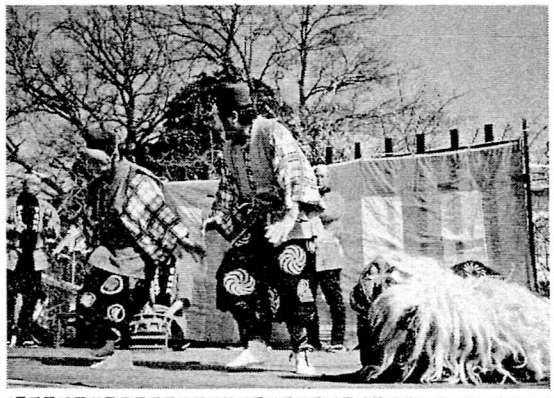
梅の咲き具合は暖冬のためか、もうそろそろ終わりの感じでしたが、観梅客は会場いっぱいになり出で宴たけなわで、雪をかぶった富士山もくっきりとその姿をのぞかせ、早春のうららかな天気でした。

川久保会長の話では、この時期は平日にバスを連ねて観梅に来て、寿獅子舞の公演も見たいという申し出もあるそうですが、休日以外はなかなか会員が揃わないのでお断りしているそうです。このように公演の要望が多いことはたいへんうれしく、今年だけでも二十二回行なったとのこと。郷土に根ざした芸能とし

このように、幸いこの地域は郷土芸能に対して理解が深く、連携して保存に務められる恵まれた環境であり、また、市当局の支援もあって保存会の活動に活力を与えてくれていると語ってくださいました。

この寿獅子舞ですが、発祥年代は定かではありませんが、江戸中期のものと思われ、「はやし獅子舞」の系統で、西湘地方では曾我別所だけに伝わる芸能です。

午後一時になると、別所会場の特設舞台では祭囃子の「鎌倉」、「神田丸」などの囃子に合わせて獅子やヒョッ



ニュース・伝言板

新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々の入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘に御協力下さい。なお、協会の事業としては、県民俗芸能大会の開催、各種芸能見学会、講演と映画の会、会報の発行等を予定しております。入会ご希望の方は、氏名、住所、電話番号を明記の上、会費（年額一人千五百円、団体三千円）を納入してください。なお、納入方法については、事務局にお問い合わせ下さい。

会費の納入について

当協会の事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入についての御協力がぜひとも必要です。会費は原則として、各年度五月末日までに納入することになっていきます。

協会行事報告

○全国民俗芸能大会の見学会

期日 平成3年11月23日（祝）
場所 (財)日本青年館
概要 文化庁企画で毎年催されており、第41回大会となっている。

開演前に解説書を配布し、自由見学形式で行った。参加者33名。

演目は延年チヨウクライロ舞（秋田県）、平戸ジャンガラ（長崎県）、懐山のおくない（静岡県）、いざなぎ流御祈禱神楽（高知県）、根尾の盆踊（岐阜県）の五演目。

○講演会

日時 平成4年3月21日（土）10時～12時

会場 大和市立図書館
演題 古民謡に親しむ

講師 城所 恵子先生
概要 大和市教育委員会の後援、大和古民謡保存会の協力を得て実施。

古くから伝承されてきた民謡は人々の生活心情などを伝える大切な民俗文化財であることを話され、和やかな雰囲気の話演会となった。
なお、大和市教育委員会制作の古民謡のビデオを上映した。

★★★★★★★★★★★★★★

編集後記

本号は後継者育成についての特集をお届けします。
アンケート実施に際しましては、会員の皆さまのご協力をいただきありがとうございました。遅くなりましたが、結果概要をお知らせします。また、本文で紹介した座談会のも



ようですが、これは三月七日（土）に県政総合センターを会場に行いました。後継者育成に携わる方々の活動のヒントになれば幸いです。
編集部では会員の方々からの投稿をお待ちしていますので、日頃の活動状況等の紹介や情報交換の場として活用くださるなど、お気軽にお寄せください。



「かながわの民俗芸能」第55号
平成4年3月31日発行

編集 横浜市中区日本大通り33
神奈川県教育庁生涯学習部
文化財保護課内
神奈川県民俗芸能保存協会
事務局 ☎(201)一一一一代

発行 神奈川県民俗芸能保存協会
印刷 株式会社 港栄印刷
☎(333)八八一五代